株式会社　ベースボール・マガジン社発行 「サッカークリニック　３月号（2013）」
取材・構成 / 島田徹 様　写真 / 筒井剛史 様より

「春先には、ベースづくりに必要で、かつ基礎的な課題を明確にすべきだ」

特集 春に鍛える

１９９３年に福岡県で誕生した「上西郷 West Kids」
２０００年には全日本少年サッカー大会の全国大会へ出場し、その後、フットサルや８人制サッカーでも好結果を残してきた。
０７年には「FC 上西郷 West Kids」と改称し、０９年には「WEST KIDS DUEL」という３種チームも設立した。
福岡県の宗像地区を中心に活動する同クラブでは、いかなる春を過ごしているのか？　藤川英雄・代表に聞いた。

Spring Training in Junior Category 1　精神面の成長も期待

■春休みの予定を教えてください。

藤川　大会に出場した後、熊本の「阿蘇青年の家」で２泊３日の短期合宿を行います。この合宿は１８年間、続けているものです。参加するのは小学３年生以上の全員。だいたい毎年、各学年８人程度の部員数となっているので、合計すると３０名弱が参加します。

■合宿前に参加する大会は強豪チームが集まるものですか？

藤川　確かに、最近は強豪チームが集まる大会が次々に企画、開催されていますが、私は昔から行われている大会に出場するようにしています。その理由の一つは、クラブ設立時からお世話になっている恩があることです。もう一つは新チームの立ち上げ時に参加する大会が、強豪チームが集うものであるべきだとは感じないからです。
　強豪チームと戦って自分たちのレベル、現在地を知ることも必要なことだとは思いますが、それはまだ先で良いと思います。それよりも春に必要なのは、チームのベースを作り、かつ基礎的な課題を明確にすることです。それは既存の大会でも十分に可能なことだと思うからです。

■阿蘇の合宿で必ずやることはありますか？

藤川　山登りです。登りで３０分から４０分くらいかかるものをします。と言っても、早い子どもは２０分くらいで登ってしまいます。

■なぜ山登りを？

藤川　足場が悪い山を登るので、なかなかきついと思います。しかしこういう事も必要だと思うのです。

最近はメンタル面の弱い子どもが多く、きついことを大人があえてやらせないとダメな部分があります。また辛いことをやり遂げたときの達成感を味わってほしいとも思うのです。

■合宿ではメンタル向上も目的の１つとなるということですか？

藤川　そうですね。ほかには朝６時半に起きての早朝ランニングや「早朝大声大会」も行います。

■大声大会とは？

藤川　草原と丘があるところに行き、１人だけ５０メートルほど離れます。そこから仲間に向かって朝のあいさつ、自分の目標などを大声で叫ばせるのです。声が届けばチームメートから丸印が出ますが、聞こえなければバツ印がでて、もう一度やり直しとなります。大声大会の目的は「自分の考えを言葉で表現できるようにする」ことと「『評価』は自分で下すだけではなくて周囲が下すものである」ということを理解させることです。今の子どもはすぐいいますよね、「僕、頑張ってるもん」と。頑張っているかどうかは周囲が決める事だという事を理解してほしいのです。そうすればもっと頑張れると思います。

■合宿では、練習試合を組むこともありますか？

藤川　クラブ設立時は少なかったのですが、「上西郷が行くから」という理由で同じ青年の家で合宿を行うチームが最近は増えました。ですから、期間中に５試合くらいは行えます。

■一日のスケジュールを教えてください。

藤川　丸一日使える２日目を例にしましょう。９時半から１２時まで練習し、昼ご飯をはさんで　１４時まで休みます。そして１４時から１６時まで２回目の練習を行い、さらに夕食後の１９時から２１時、３回目の練習をします。いずれかの練習時間に雨が降っていたら屋内でミーティングを行います。

■３部制に対する子どもたちの反応は？

藤川　楽しんでいます。きっと、４部練習にしても喜んでやってくれるのではないかと思います（笑）。２部練習は通常の週末に時々行うことがありますが、３部練習は合宿でしか経験できません。ですから楽しくて仕方がないのではないかと思います。

■春合宿後に見える子どもたちの変化とは？

藤川　年によって変化の度合いや質は異なります。その違いがどうして生まれるのか…やはり「リーダーシップをとれる子どもがいるかいないか」あるいは「そういう子どもが多いか少ないか」によって変わってくるのでしょう。

　昨年度のチームはよくまとまっていました。確か、春の合宿でうまくまとまり、その後、チームは着実に成長していったように記憶しています。春にまとまりを見せるチームは、その後、強くなるというのが私の経験上の理解でもあります。

■「２泊３日では短い」と感じることはありますか？

藤川　それはあります。けれども、私を含めたコーチ陣は全員会社員なので、それ以上の日程で合宿を組むのが難しいのです、ただ、今の倍となる４泊５日の合宿を行ったとして、果たしてその効果も２倍になるのかどうか…

■２泊３日の合宿で子どもたちが負担する費用は？

藤川　５０００円くらいですね。それは施設の費用です。マイクロバスで移動するのですが、その高速料金、ガソリン代は月々の月謝というか部費でまかないます。

■ちなみに月々、子どもたちが支払う月謝、部費はいくらになるのでしょうか？

藤川　低学年（１～３年生）が２０００円、高学年（４～６年）が３０００円です。

■ずいぶんと安いですね。

藤川　先ほども触れましたが、すべての指導者が会社員であり、営利が目的ではないから可能だと思います。ただし、福岡県ではそういうチームが多いと思います。

■合宿では戦術的な面の浸透も目指しますか？

藤川　合宿だから、ということはありません。合宿中に行う練習試合を含めたあらゆる試合に備え、そして対戦するチームに合わせた戦術の話を子どもたちに私は話します。それは「このチームは左サイドを突いたほうが面白い攻撃ができるかもね」というようなことです。

私は指導する上で、「子どもたちにサッカーを楽しんでもらいたい」ということを大切にしています。ただし、「楽しむ」とは気ままに自由にボールをおいかけるということではありません。規律をしっかり守るということなども含め、本気で取り組んで初めて実感できるのが「楽しさ」だと思うのです。子どもたちにそれを何とか理解させたいですし、それを理解した子ども達は自然とうまくなるように感じています。そして、サッカーの最大の楽しさが、相手との駆け引きだと思います。ですから、小学生であっても常日頃から戦術的な話をするのです。

そういう話が子どもたちの心に常に響いているのか、と問われれば難しい問題ではあります。とはいえ、そういう話に強く食いついてくれる子どもがその年のチームの中に１人でもいると、そこから輪がどんどん広がるようにチーム全体としてそういう話を面白がって聞くようになってくれるのです。

■共有する時間が長い合宿だからこそ、そういう駆け引きの面白さを伝えやすいということもありますか？

藤川　それは確かにあるかもしれません。またそういう、チームのベースとなる部分を子どもたちの心の中に根付かせる良い機会でもあることは間違いありません。

■チームのベースに関し、「駆け引きを楽しむ」こと以外にどのようなことが挙げられますか？

藤川　ほかのチームの指導者方からよく掛けられるのが「上西郷は粘り強いね」という言葉です。確かに私のコーチングではボールへの執着心についてのものが最も多いかもしれません。「ボールを奪われるな」「当たられても倒れるな」「すぐにボールを奪いに行け」そんな言葉です。

それには理由があります。２０００年になって初めて全国大会に出場（全日本少年大会）したとき、２分け１敗に終わり、１勝もできませんでした。その福岡県予選を振り返ると、当時の福岡県ではまだ珍しかったポゼッション･サッカーがうまく機能してくれました。しかし、全国の舞台に立つようなチームはポゼッション・サッカーが既に浸透しており、しかもそのレベルはわれわれよりも数段上にありました。と同時に１対１の強さ、それはフィジカル面ばかりではなく、ボールへの執着心という意味での強さの必要性も痛感させられました。そのため私も「これからはそこにこだわった指導をしなければならない」と感じたのです。

今回の合宿でもそこから取り組んできたチームのベースをしっかりと子どもたちに伝えながら「いつも以上に楽しいものになれば」と私自身も期待しています。

Let's play soccer in spring!

ジュニア年代の春＆春合宿を考える　INTERVIEW Special Features No.1

藤川英雄・代表
（ＦＣ上西郷 West Kids / 福岡県）

４種の「FC 上西郷 West Kids」と３種の「WEST KIDS DUEL」で代表と総監督を務める藤川氏は、サッカーだけでなく私生活も重視した指導を行っている。

◆ 記事について

株式会社ベースボール・マガジン社様より　転載許可を頂き掲載させていただきました。

＊チーム名　… 2017 年度より FC 上西郷 WEST KIDS DUEL に変更
＊チーム編成… ３種は活動中止
＊部費　　… 2017 年度よりトップチーム 3500 円・サテライトチーム 3000 円・キッズクラス 2500 円 に変更